

VI. 国際的な取り組み

第1章

附属学校国際化

三小田 博 昭

第1節 概要

平成16年に名古屋大学が国立法人となったのを契機に、名古屋大学総長を中心とする大学執行部体制が重要な役割を担うようになった。当然ながら附属学校も大学の意志決定のもと大学法人附属としての学校として運営がなされている。名古屋大学が附属学校に課しているミッションの1つに「附属学校の国際化」がある。現在

名古屋大学は国際化拠点整備事業（以下G30）に取り組んでおり、附属中・高等学校も高大接続という観点からG30に積極的な関わりを持っている。これまでも、海外からの高校生（一部大学生）や外国人教員を多く受け入れてきた経験から、校内に外国人生徒や外国からのゲストを招き入れることに対して大きな抵抗感はなかった。以下の表は平成22年度に本校が受け入れた外国人高校生（一部大学生）と外国人教員の一覧である。

(平成22年度の実績)

時期	国名	外国人生徒（学生）数	外国人教員数	関係機関等
4月	フィリピン	21名	2名	JICE
6月	インドネシア	23名	2名	JICE
6月	インド	25名（大学生）	—————	JICE
7月	アメリカ他7か国	—————	15名	G30プログラム
9月	中国	—————	36名	日中21世紀交流事業

平成23年度もすでにアメリカを中心に合計50名を超える外国人生徒・外国人教員を受け入れている。また、生徒の中には外国からの高校生を各家庭にホストファミリーとして受け入れ、家庭においても外国人生徒と積極的に交流をはかっている。今年度は、名古屋大学留学生（オーストラリア出身）が教育実習にきて、高校1年生のオーラルコミュニケーションのクラスを中心に中学でも実習をおこなった。また、受け入れを行っている以外にも、附属高校生を中心に毎年、長期留学に出かける生徒も多い。現在も数名の生徒がロシア、フィンランドなど海外の高校に留学へ出かけている。

本校が掲げる国際化の概念とは、単に英語を使ってコミュニケーションができる人材を育てるのではなく、「地球市民としてグローバルな視点で事象を考えることができる人材を育成する」ことである。中学ではSLPIで「英語を使ってプレゼンしよう」という講座を設定し、自分の言葉で英語を話す取り組みを行っている。また、高等学校では、SLPIIで「地球市民学」という学校設定教科を設定し、その科目の中で前期では「国際コミュニケーション」という科目について学び、後期では「共生と平和の科学」という科目を全生徒が必修科目として履修している。

第2節 新教員分掌「高大連携・国際交流」

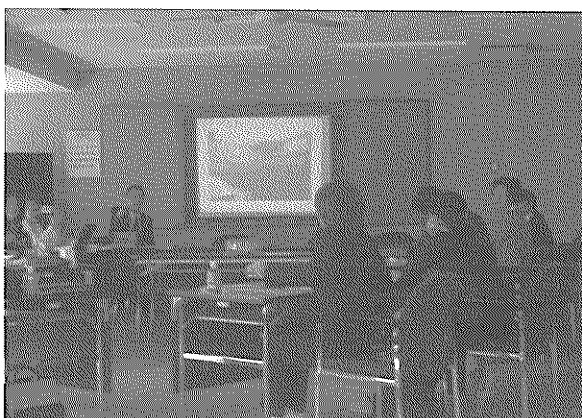
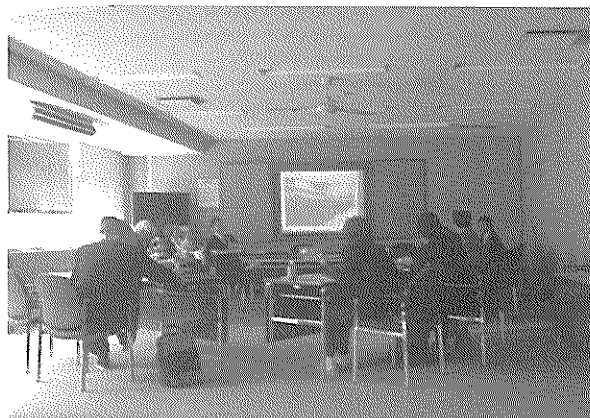
2011年度に教員の新しい組織として「高大連携・国際交流」を設けた。この新しい教員分掌は2009年度に新設した教員分掌である「高大連携」を発展的解消して設置した。「高大連携」の時には、高等教育との接続に関する業務を主な仕事としていたが、この業務に「国際交流」の業務も追加された。具体的な業務内容は、海外から学

校訪問などの申し込みがあった時に、中心的な窓口となり、日程調整や全体スケジュールを名古屋大学と調整しながら決定するといったものである。名古屋大学との調整が必要な理由は、G30プログラムに関する紹介や名古屋大学の紹介をしながら、名古屋大学の中における附属学校の位置づけを知ってもらうためである。平成23年度

の活動も海外から多数の訪問者を受け入れた・9月には文部科学省からの要請に従い、タイPrincess Chulabhorn's College Development Project (PCCD

P)の一行を本行に受け入れた。以下はその際の様子とインドネシアの高校生が来校した際のスケジュール例である。

Princess Chulabhorn's College一行との懇談の様子



インドネシアの高校生が来校した際のスケジュール例

資料① 訪問学校の概要とプログラム

1. 訪問団	インドネシア訪問団第2陣 愛知グループ			
2. 訪問日	2010年6月25日(金)	3. 訪問人数	訪日団(生徒23名、引率2名)計25名 JICE事務局1名 CDN2名	
11. 学校概要	1) 基本情報: 国立/全日制/普通科/男女共学 2) 設立: 昭和27年4月開校 3) 生徒数: 596名、クラス数: 1年生3クラス、2年生3クラス、3年生3クラス 4) 部活動: 文化部11、体育部8 5) 主な進路: 6) 学校の特徴等 国立学校では唯一の併設型中高一貫教育校として、心豊かにして主体性のある人間形成を企図しています。2006年度には、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されました。SSH指定を契機に研究重点大学でもある名古屋大学のキャンパス内にあるという地の利を最大限に活用しつつも、理数科だけに限定せず、国語・英語といった文系と社会科学系の教科、さらには体育・技術や芸術系教員まで含んだ幅広い教育での主体的な学習と、生徒会活動や、クラブ活動等での自主的で共同的な活動を統合する形でのサイエンスリテラシーの基礎を育成していくことを目標として設定しました。			
12. プログラム	時刻	内容	場所	備考
	8:25	名大到着		山手通ローソン前あたりでバスを降りる(路上)
	8:25~8:30	下車場所から名古屋大学国際開発研究所へ移動		出迎え: 安藤 マリオン
	8:30~10:15	大学案内 1) キャンパスツアー(英語) 2) 研究室見学 3) 記念撮影 4) 大学紹介、プログラム紹介(英語) @豊田講堂内会議室	名古屋大学	担当: JICE 高木 国際開発 安藤 マリオン 留学生 附属: 三小田 佐藤 キャンパスツアーは2グループに分かれる
	10:15~10:30	名大附属へ移動		引率: 三小田 佐藤
	10:45~	学校紹介 ① 附属学校代表挨拶 ② 訪日団代表あいさつ(引率者代表) ③ 記念品交歓(引率者代表⇔学校代表) ④ 学校紹介 ⑤ 質疑応答	第一会議室	担当: 学校代表、三小田、佐藤愛 司会: 三小田(インドネシア語通訳要)
	~12:00	校内案内	各施設、および各クラス	担当: 三小田、佐藤愛 学校の各施設を2グループに分かれて案内する。図書館、体育館など。
	12:00~13:10	昼食 途中より、高校執行部(生徒会)のみなさんと会食 移動	第1会議室	弁当、お茶配布
13:15~14:05	交流会 ① 名大附属中学生徒代表挨拶 ② 訪日団生徒代表挨拶 ③ 名大附属生徒によるパフォーマンス(未定) ④ 訪日団によるパフォーマンス披露(15分程度) ⑤ 交流ゲーム	格技場	クラス: J2B 担当: 佐藤愛 司会: 生徒(インドネシア語通訳要)	

12. プログラム		移動		
	14:15 ~ 15:05	高校英語授業参加	校内	クラス：S1A (英語) 担当：三小田
		移動		
	15:15 ~ 15:20	ショートホームルーム		
	15:20 ~ 15:40	掃除		4グループに分かれて参加→J1、J2各クラス
	15:45	着替え	第1会議室会議室と 第2会議室	
	16:00 ~ 16:30	部活動参加 Aグループ：中バスケ Bグループ：弓道		2グループに分かれて、30分ほどで交代しながら参加する もしくは、さまざまな部活を見て回る。
	16:30 ~ 17:00	部活動参加 Aグループ：弓道 Bグループ：中バスケ		
	移動、着替え	第1会議室会議室と 第2会議室		
17:30	バスへ移動			

第3節 Global Committeeの活動

平成22年より、ASPの地球市民学を受講している生徒のうち、希望者を募ってGlobal Committeeを結成した。主な活動は校外で行われる国際理解教育をはじめとする多種多様な企画に参加し、国際理解活動の輪を広げることにある。平成23年度に実施した主な活動は、名古屋大学の学生による、「国際理解ワークショップ」への参加、名古屋大学法政国際協力センター主催の「ASIA～アジアの法と社会について考えよう～」、アメリカノースカロライナ州のカルボロ地区にある高等学校との交流、そして月1回のペースで行っているモンゴル国ウ

ランバートルにある新モンゴル高等学校とのTV会議と多岐にわたる。10月3日には、新モンゴル高等学校からジャンチブ学校長が来校し、本校生徒に講演と質疑応答を行った。新モンゴル高校とのTV会議に関しては、それぞれの自己紹介から始まり、学校紹介、日本とモンゴルのお国紹介へと発展した。そして現在は日本とモンゴルの両生徒間で共通のテーマを設け、ディスカッションを行っている。現在のテーマは「伝統文化と近代化」である。平成24年夏休みには、本校生徒が新モンゴル高等学校を訪問し、TV会議で行っているディスカッションのテーマを現地で討論する計画である。

Princess Chulabhorn's College一行との懇談の様子

